

乍恐口上袖控

一 魚鳥口銭之義從

先年毎月朔日問屋より

御勘定申上候節手前分

目録相添口銭相廻し

來り候、然所未た口銭

目録等相廻し不申候^ニ付

問屋へ相尋遣し候所御勘

定相仕舞置候事ゆへ

其段私方より御伺申上

可然様申出候間、何卒先規

之通毎月朔日御勘定

相済候後私手前之分ハ

口銭目録共問屋より

相廻し候様被仰付

被為下候ハ、難有仕合奉存候

先達^而御願申上置候

た^ニこ之義人別不残

私手先より差出し來り候所

此度ハ問屋より申上御聞届

被仰付候旨伝承仕候

尤此度御仕法替之義^ニハ

御座候得共私手前より差出し

來り候義ハ從往古之

義^ニ而拾ヶ年計已前

魚鳥座出来^ニ付私手先^ニ

相成候義^ニ而ハ無御座候

乍併一旦御取極相済候

義^ニ御座候得ハ當時相勤

居候者之内四五人私手先

付^与被仰付被為下候ハ、

難有仕合奉存候、右之段

乍恐急々口御評儀被

仰付被為下候ハ、重々難有

仕合奉存候、此段宜敷様

偏奉願上候、以上

大谷藤之丞

(印)

亥七月

5—16—2

(端裏書)

「大谷藤之丞殿

村瀨庄左衛門」

五月十日

一千鰯口錢之儀是迄五步

□^二候^一共此度三步^二御減少

被仰付候間此段差含

居可申事